

あいばの 饗庭野と演習場

饗庭野の名称

今津、新旭、安曇川の各地域と朽木地域に広がる東西約8km、南北約5km、標高200mあまりの饗庭野は、古くは「熊野山」と呼ばれ、周辺集落が共同で利用する丘陵地でした。水の確保が難しく農地としての利用が困難な土地でしたが、江戸時代をはじめ、たびたび境界をめぐる相論が繰り返されるなど、古くから周辺住民にとって肥料や燃料、用材などを採取する大切な林野でもありました。

明治6(1873)年の地租改正法(新たな土地課税の方法)の公布により、全国各地で集落ごとの絵図などが作成されることとなり、熊野山では明治7(1874)年に「熊野山地券取調総絵図」と呼ばれる地図のほか、「饗庭野組出地境界図」(明治8年)や「饗庭野入会條約書」(明治9年)などが作られています。かつては熊野山と称していましたが、明治期のこの頃から土地境界線の確認に関連して、「饗

庭野」の名称が使用されるようになったことが分かります。

演習場の設置

「饗庭野二関スル書類」(明治43年)には、饗庭野が演習場になった経緯が次のように記載されています。

「明治19(1886)年頃、古くから周辺集落の草芝の採取場所だった饗庭野に演習場としての買収話がおこった。当初、周辺集落の住民はこの話に渋りがちであったが、演習時以外にこれまで通り肥料や燃料、用材などの採取を長く認めてもらう代わりに、買収に応じる意向を示し、買収が成立した。」とされています。この前後には、当

時の高島郡長から滋賀県知事宛の意見書や、滋賀県知事による陸軍省への上申書の提出などの調整を経て、正式に饗庭野に演習場が設置されることとなりました。

設置後は、周辺地域の買収が進められるなど順次演習場は拡大され、京都・大阪・奈良・敦賀・金沢などをはじめとする県内外の各隊による演習に使用されました。

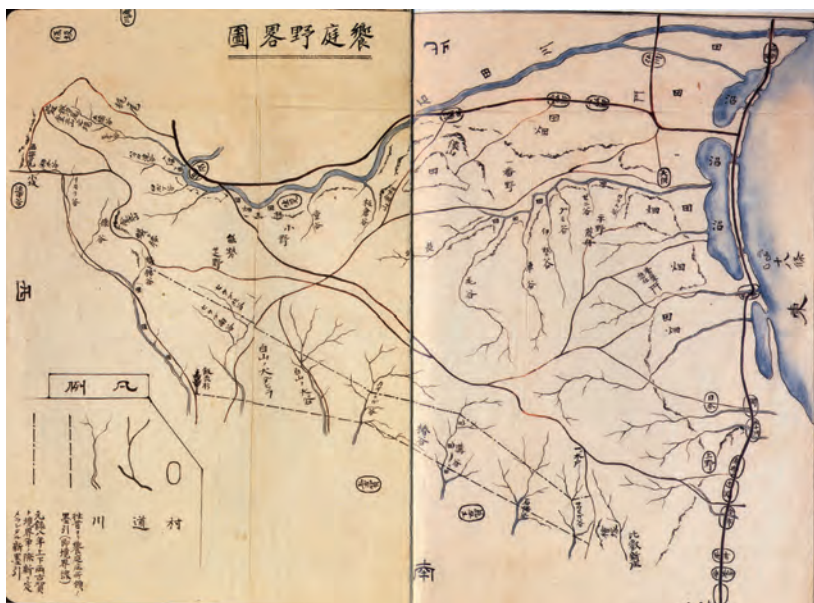
戦後の饗庭野

戦後、米軍に接收されていた饗庭野演習場は、昭和27(1952)年に陸上自衛隊(当時の保安隊)との共同使用によって、陸上自衛隊今津駐屯地が設立されたほか、昭和47(1972)年には、航空自衛隊饗庭野分屯基地が開設されました。

本年はそれぞれの基地が設立されて50年、70年の節目を迎えるなど、饗庭野に広がる丘陵地は、長きにわたり演習場としての役割を果たしてきました。

圖文化財課

☎(25)8559



明治30年頃の饗庭野略図

編集感

本格的な夏が目の前にやってくる季節になりました。広報のためにさまざまな場所に撮影に行くと、どうしても太陽の下に長時間いることもあります。特にこの季節はこまめに水分をとって、帽子をかぶって日焼け対策をしっかりすることが大切です！皆さんも暑い夏に負けないように対策をして、思いっきり夏を満喫しましょう！！(K)

広報たかしま

令和4年

7

月号

No.270

発行▼高島市 編集▼政策部企画広報課
滋賀県高島市新旭町北畑5の5番地

☎0740(25)8000(代)
http://www.city.takashima.lg.jp
t-info@city.takashima.lg.jp